

一般質問



結婚相談事業を見直すべき

市政会

近藤 栄紀 が問う

少子化問題について

Q 未婚化、晩婚化、晩産化により少子化が進んでいるが、特に未婚者数はどれくらいか。令和元年度の結婚相談事業費は平成29年度の3分の1に縮小しているが何故か。今後、結婚相談事業費の見直しを検討すべきではないか、見解を伺う。

A 直近の実施国勢調査のデータによると、15歳以上人口における勝山市の未婚率は、男性

36.2%、女性26.1%となっており、福井県、全国平均よりも高い割合となっている。

結婚相談事業の事業費について、平成29年度は、委託で事業を実施したことや、宿泊を伴うイベントを開催したことなどから、一時的に予算額が増加したが事業の見直しを行い、令和元年度からは従来の事業形態に戻したため予算額も減少している。

これまでの事業からは、積極的にコミュニケーションができている方の成婚率が高い傾向があるように感じている。そのため今後の事業内容については、趣味を同じくする交流の場の提供、年齢層を考慮して共通の話題を見つけやすいイベントの開催など、イベント会社に委託する大規模なものとは異なり、少人数だからこそ充実したコミュニケーションが図れる機会の創出ができるよう知恵を絞っていきたい。

〔その他の質問〕

- 道路改良・整備事業について
- 公共下水道事業における公営企業会計の適用について
- 勝山高校の今後について



道の駅の将来計画は

市政会

下道 恵子 が問う

「道の駅」の周囲の整備について

Q 令和2年春のオープンを予定している「道の駅恐竜溪谷かつやま」の周囲の整備について、昨年取り壊された製材所跡地も含め、将来的に恐竜博物館の来館者用のパーク＆ライド用地や、店舗街などをつくったらと考えるが、市としての計画はあるのか。また、川沿いの堤防だが「恐竜の町」をアピールするために恐竜のモニュメントを一定間隔において並べ「恐竜の散歩道」などと名前をつけ観光客の方が歩く道にしたらいいのではと思うが、市の考えを伺う。

A 道の駅の周囲においては今後民間企業の参入も踏まえ、いろいろな活用が図られることが予想される。計画的な土地利用を図るためにも、基本計画による道の駅の敷地拡大や商業施設誘致及び企業や宿泊施設の誘致など、一体的な活用について研究したい。

ご提案の堤防は、河川管理施設等構造令において設置が義務づけられている県管理の管理用通路となっており、河川区域内の工作物の設置は制限されていることから、現状のままでは現実的には困難だと思われる。ただし、新保橋から恐竜橋までを散歩道等としての活用することは、旧製材所跡地を含めた敷地のあり方によっては有意義と考えるので、今後の整備内容を確認する中で管理者である県との協議を検討したい。

〔その他の質問〕

- 農業振興について
- 大型連休の対応について
- 幼児教育・保育無償化に伴う課題について

予算委員会報告

予産委員会では、令和元年度一般会計補正予算案と、平成三十年度一般会計補正予算に係る専決処分承認についてを審査し可決及び承認しました。

令和元年度一般会計補正予算の審査では、教育会館と市民会館の非常用発電機の改修について、両施設の非常用発電機が、点検時に動作不良が発見された為、設備の変更及び発電機の更新が必要となったとの説明がありました。

これまでは、教育会館にのみ非常用発電機をおき、市民会館にはケーブルで送電する仕様になっていましたが、今回の更新では両施設にそれぞれで設置する提案がありました。委員会では安全性や予算に十分な配慮をもとめました。

各種事業に対する補助金についての説明もあり、コミュニティ助成事業など、市民が地域活性化に向けて行う事業に予算が計上されました。

現在すでに取り組まれている事業、利用されている施設の修繕費、設備の更新などに使われる予定です。

また、旧式化して使用されていなかった、点字用プリンターを更新する予算も計上されました。これまでの利用状況と更新後の活用方法の説明をうけて、広く活用できる体制を整えるようにとの意見が出されました。

その他、委員会では、個々の予算内容を確認し、使途の適正等について審査しました。

常任委員会報告

総務文教厚生委員会

■今定例会の審査結果

審査の結果、議案5件を全て可決及び承認し、陳情2件のうち1件を採択、1件を不採択としました。

災害対応特殊救急自動車の購入契約の締結について

平成10年に購入した救急自動車が老朽化及び劣化し、更に積載資材が耐用年数を経過し老朽化や部品がないことによる修理不能な状況になっています。全国的に救急件数が増加し勝山市管内でも同様に増加傾向であり、救急を要する傷病者に良質な病院前救護や更には救急救命士の処置拡大の高度化に対応できるように更新することにしました。



平成25年度導入の同型車

内でも同様に増加傾向であり、救急を要する傷病者に良質な病院前救護や更には救急救命士の処置拡大の高度化に対応できるように更新することにしました。